

算数的活動を通して、自ら考え、表現する力を育む指導のあり方

檜枝岐村立檜枝岐小学校 教諭 栗城 敦子

## 1 研究の趣旨

単元全体及び1単位時間の中にどのような算数的活動を取り入れるか、また、その算数的活動によって児童の考え、表現する力をどのように伸ばせるか検討、研究するために、本主題を設定した。仮説は以下の通りである。

算数科の授業実践を通し、「見つける」「つくる」「つかう」算数的活動の具体的な手立てを工夫すれば、自ら考え、表現する力を身に付けた児童が育つであろう。

## 2 研究の概要

本研究では、「算数的活動」を『見つける』『つくる』『つかう』の3つで捉え、児童の実態に応じて、それぞれ具体的な手立てを講じることで、一人一人の力の高まりをめざした。

### (1) ブロック毎のめざす児童像

- ① 低学年部…具対物などを用いた算数的活動を通して課題をとらえ、自分なりの考えをもって解決し、自分の考えを表現できる子ども。
- ② 中学年部…既習事項や既有体験を生かした算数的活動を通して、進んで課題解決をし、自分の考えを表現できる子ども。
- ③ 高学年部…既習事項や既有体験を生かした算数的活動を通して、進んで課題解決をし、自分の考えを伝え合える子ども。

### (2) 研究の視点

- ① 視点1…「見つける」「つくる」「つかう」算数的活動を効果的に取り入れた1単位時間の指導過程の工夫
- ② 視点2…児童の実態の把握とそれらをもとにした指導の工夫
- ③ 視点3…算数コーナーなど、環境構成の工夫

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- ① 問題場面と同様の具体物を使うことで、児童の興味・関心が高まった。また、問題場面を半具体物やプロジェクターを使って再現したことで、課題が視覚的に捉えられ、具体的なイメージをもって課題解決に取り組むことができた。（「見つける」算数的活動）
- ② 立式や作図などをして答えを求めるだけでなく、答えを導き出した思考過程を、言葉や図の補助線などでノートに記入することで、自分の考えをまとめる力が高まり、発表や交流活動に自信をもって意欲的に取り組むことができた。（「つくる」算数的活動）
- ③ 適用問題として通過問題のレベル1からレベル5までを準備した。レベル5までの全てを解くだけでなく、数種の解き方で求めることができた。（「つかう」算数的活動）

### (2) 今後の課題

- ① 本時に関わる既習内容を厳選し、確認の方法を工夫するなどして、短時間で有効に既習内容を振り返ることができる手立てを考えていく必要がある。
- ② 個別指導を必要とする児童に関わる時間が多くなり、上位児のつまずきに気付かなかつたり、時間を持て余らせたりすることがあった。下位児の理解の見極め、ヒントカードなどの適切な支援の検討が必要である。
- ③ 「つかう」算数的活動では活用の場面も考えていたが、うまく設定することができなかつた。今後の検討が必要である。